

2026/1/5

【連載企画④】

生成AIは「生徒が自ら学ぶ」を実現! ～松山市立東中学校の「教科書AIワカル」の公開授業～

#連載 #松山市立東中学校 #教科書AIワカル #生成AIの活用 #NEW HORIZON #公開授業



リテラチャー・サークルという学習活動をご存じですか。英語の授業の中で、ある程度のまとまった分量の英文を読み、その内容について小グループで話し合う活動のことで、生徒自身の経験や社会での出来事などをテーマに、生徒主体で話し合いながら進めていきます。特徴的なのは、4人のグループを基本とし、Illustrator（イラストを描き、説明する役割）など、それぞれが特定の役割を担当しながら学習内容を深めていくこと。そんなアプローチを採用するリテラチャー・サークルにおいても「教科書AIワカル」は生徒に寄り添い、確実に学習をサポートしていました。「教科書AIワカル」をご使用中の学校に活用方法を教えていただく連載企画の第4弾。愛媛県松山市中心部にある松山市立東中学校の2年生の授業にお邪魔しました。

*「教科書AIワカルの活用」は、文部科学省が実施する令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業（AI活用による英語教育強化事業）」の採択事業の一環として実施されています。

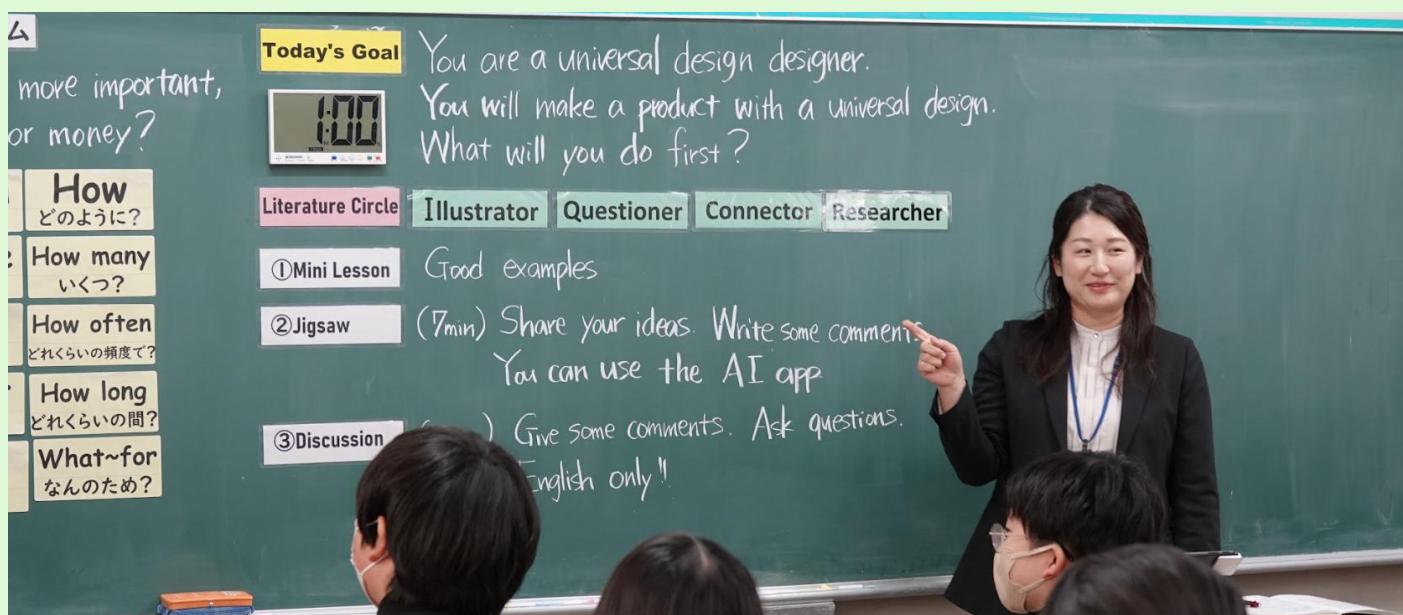
東書 NEWS! | No.16

リテラチャー・サークルとは？

松山市立東中学校は、松山市の中心部に位置する、たくさんの外国人観光客でにぎわう道後温泉や松山城からほど近い場所にある中学校です。「自ら学び、共に生きる生徒の育成」というスローガンを合言葉に、子供も大人も誇りをもてる学校づくりを目指しています。そのための取り組みの一つとも言えるのが、見学させていただいた英語科の「リテラチャー・サークル」です。生徒には以下のような役割が与えられ、それに基づいて学習していきます。授業を担当された和家加奈先生によると「1年生からリテラチャー・サークルを実施しており、対話を重視した協働学習の形態には慣れている」とのこと。

- ① Summarizer：本文内容を要約する役割
- ② Illustrator：印象に残った場面のイラストを描き、説明する役割
- ③ Questioner：本文内容に関する質問を投げかける役割
- ④ Connector：自分の体験や世の中の出来事と本文内容を結び付けて話す役割

*ただし公開授業では、①Summarizer にかわって、Researcher（トピックに関連する事柄について調査する役割）を設定

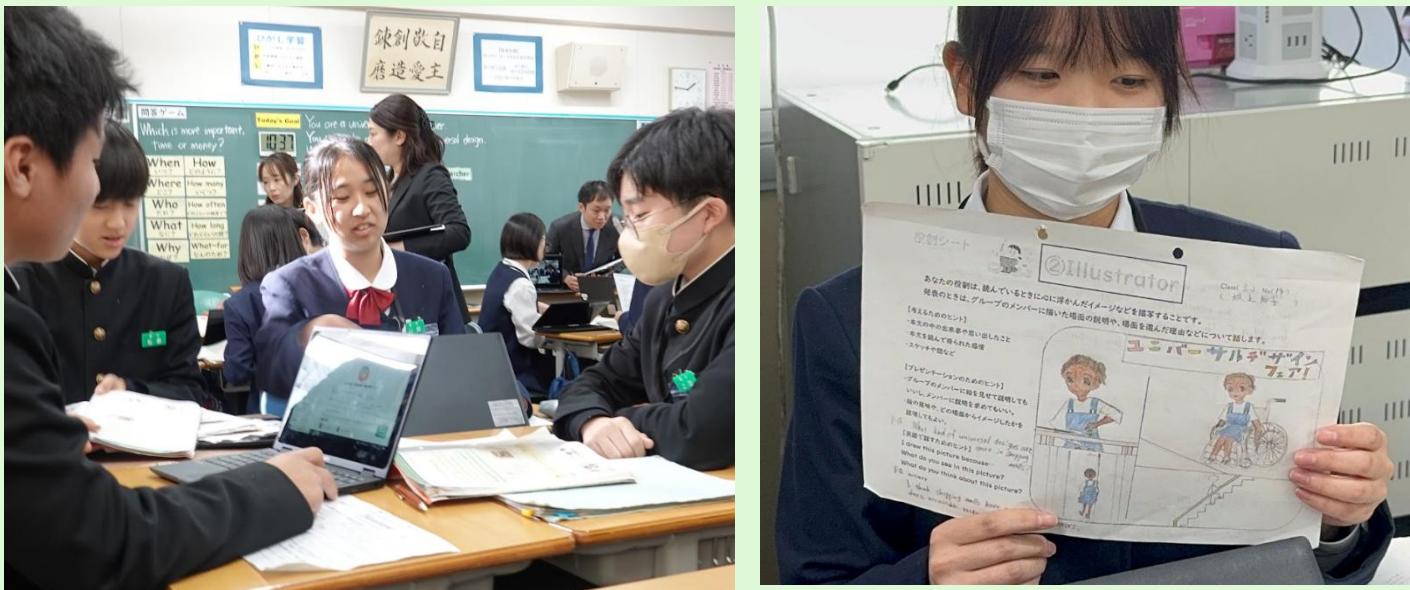


役割分担することによって生まれる豊かなコミュニケーション

単元名は、Unit 5 の「What design is good for everyone?」。単元目標に「台湾の生徒に自分の考えを知らせるために、ユニバーサルデザインについて書かれた英文を読み～」とあるように、単元末活動は最終回での台湾の生徒とのオンライン会議！ 生徒も気合十分で授業にのぞんでいました。

そして今回のメインの活動となるリテラチャー・サークルです。前回の活動の動画を映して、工夫していた表現や良いやり取りの例などを学級全体で共有した後、まずは Illustrator など、4つの役割別のグループで集まります。同じ役割同士で困り感を共有したり、アドバイスし合ったりすることが目的です。

次に、別々の役割を持つ4名のホームグループになりました。各グループでめあてを確認した後、自分の役割に基づいて、ユニバーサルデザインについて読んだことをもとに、考えたことや感じたことを伝え合います。ある Researcher の生徒は「冷蔵庫に点字がついていた」などの報告をしており、別の生徒はそれを聞いて “Good!” と反応するなど、とても豊かなコミュニケーションが育まれていました。これは、役割にそってやり取りをしているからこそ、なのかもしれません。

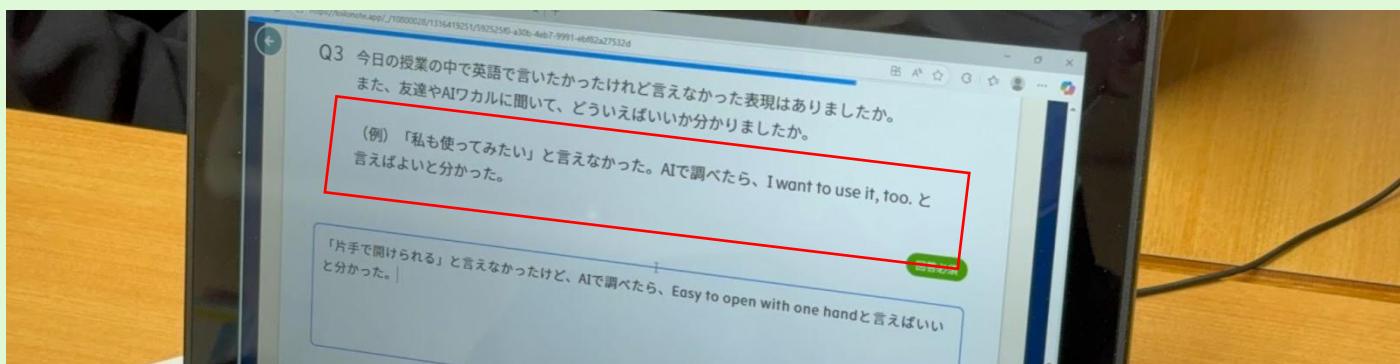
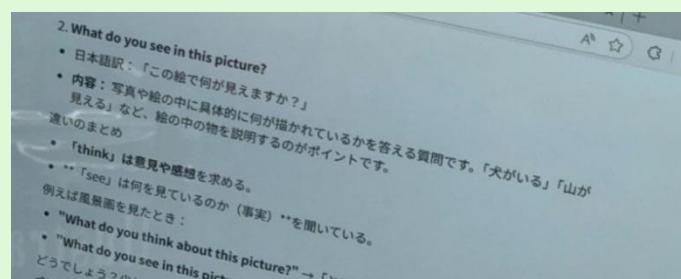
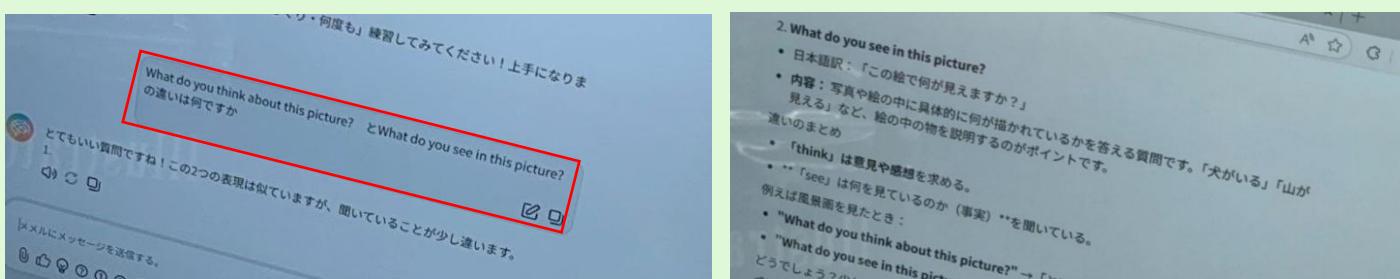


(左) それぞれの役割にしたがって、内容を深めていきます。 (右) Illustrator の生徒。印象に残った場面を絵で表現し、さらに英語で説明します。

「教科書 AI ワカル」はさまざまな用途で使用可能

もちろん、ここでも「教科書 AI ワカル」は大活躍！ 言いたいことを英文にしてもらう際に使用するだけでなく、「2つの似た文章の違いについて質問する」といったさまざまな使用方法が見られました。少しでも疑問点があったら AI にたずねている生徒も多く、リテラチャー・サークルという学習形態にも「伴走者」のように学習にしっかりと寄り添っていました。

この後も、話し合ったことや印象に残ったことを共有する報告や、「あなたはデザイナーです。ユニバーサルデザイン製品を作るとしたら、まず何をしますか」といった、題材を自分ごとにしたやり取りなども行われ、台湾の生徒とのオンライン会議のやり取りに向けて、準備は着々と整っているようでした！



(左上、右上) 生徒の質問に「教科書 AI ワカル」が丁寧に答えています。 (下) 生徒のふり返り。「AI で調べたら、答えが見つけられた」と回答しています。

生徒を“24時間サポート”

さて、ここからは、授業が終わった後の研究協議の内容をご紹介します。

和家先生は「教科書 AI ワカル」について、「クラスに 30 人以上の生徒がいる環境で、個々のサポートをしてくれるのでとても助かっている」と話し、生徒自身も難しい英語が出てきた場合は「もっと簡単にして」「中学校 1 年生レベルにして」などと柔軟に使いこなしていると説明します。

「英語に苦手意識をもち、学習に消極的な生徒が『教科書 AI ワカル』と対話しながら、熱心に紙にまとめようとしている姿が見られた」と意欲向上面での導入メリットも指摘。「さまざまなタイプの生徒がいて、例えば急に火が付いたように学習を始める生徒もいる。教師がいつでもフォローできるわけではないので、生徒を“24 時間サポート”してくれるのがよいですね」と話します。たしかに学習をサポートしてくれる存在が「いつでもいる」というのは、生徒にとっては心強いですよね！



外国語の指導における生成 AI の活用について

その後、愛媛大学の立松大祐先生が「生徒が『教科書 AI ワカル』の返答を、自分のアウトプットに取り入れるかどうか取捨選択をしている姿が見られたのがよかったです」などと総括した上で、「外国語指導における AI 活用」として、以下の視点を例示されました。

- ① 教材・課題作成およびフィードバックの高度化
- ② 学習到達目標達成のための個別最適化された教材の提供
- ③ 学習効率の向上とインプット・アウトプット量の増加
- ④ 学習の機会や場面、学習方法の多様化
- ⑤ 教員の役割の転換と学習支援の充実
- ⑥ 教材研究や評価などの業務効率の向上



さらに、AI 活用の課題・リスクなどを述べられた上で、教師が担うべき役割として、以下のようにまとめられました。

- ・教師が担うべきは「学習方法（学びの手段や形式）・学習方略（学びの考え方や効果的な学び方）の指導」と「AI を使いこなす学習者の育成」である
- ・AI では代替できない活動（議論・協働・想像・思考）を中心に据えた授業デザインを考える
- ・AI は生徒が自力でアウトプット・インプットを高めるための補助として位置づける

なるほど、生成 AI の進化によってさまざまな形が生まれる一方、それらの活用については、やはり先生が中心となってきちんとした方略を提示する必要があるのですね。

* * *

リテラチャー・サークルという、生徒が役割に沿って学習内容を深めていく活動、とても興味深いものがありました。生徒のやり取りのサポート役としての「教科書 AI ワカル」の効果も改めて実感することができました。これからも「教科書 AI ワカル」の効果的な活用について検証を進めていきたいと思います！